

林木遺伝子銀行110番（長野原町林地区のサイカチの里帰り）

令和2年1月23日

サイカチは去痰薬や利尿薬などの生薬として、またサポニンを多く含むことから古くから洗剤として利用されてきました。また、群馬県ではサイカチが絶滅危惧ⅠB類に指定されています。

「長野原町林地区のサイカチ」は、群馬県吾妻郡長野原町の吾妻川(利根川水系)で進められていた八ッ場（やんば）ダムの工事敷地に生育していた2本の巨木で、高さ胸高直径は、それぞれ18mと90cm及び18mと50cmでした。ダムの建設にともない伐採が予定されていたため、当時、八ッ場ダム工事事務所から、伐採せざるをえなくなった地域のシンボルを何らかの形で残したいと林木遺伝子銀行110番の申請があり、後継樹を増殖することとなりました。そこで穂木を採取して増殖を行ったところ、それぞれの個体について苗木を育成することに成功しました。

昨年12月11日(水)に、これらの苗木のうちで70cm程度に育った2本の苗木が、ダムの完成に先立って八ッ場ダム工事事務所に里帰りすることになり、本年3月上旬頃にダムの近くに植栽予定です。なお、残りの苗木は、林木育種センター内に林木遺伝資源として保存します。



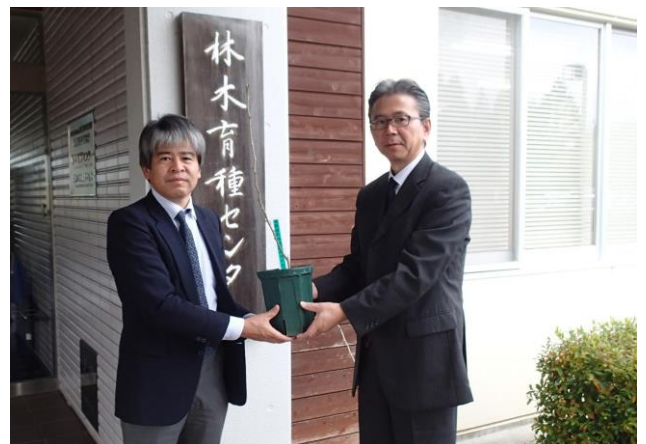
「長野原町林地区のサイカチ」（平成26年撮影）



採取した穂木



さし木後に発根したサイカチ



かみ

林木育種センターの上所長（右）から八ッ場ダム

かんたつ

工事事務所の神達副所長（左）へ苗木を譲渡